

立山室堂平の積雪

春、立山黒部アルペンルートが開通する頃、話題になるのは立山の室堂平(標高2450m)にある「雪の大谷」の積雪の深さです。多い時には20mにもなるそうですが、今年(2009年)の春は15mでした。この場所は雪が特に積もりやすい場所(吹きだまり)なので積雪が多くなりますが、ミクリガ池周辺でも春先の積雪の深さは6m~8mぐらいにもなります。最近の室堂平では11月~12月頃から雪が積もりはじめ、4月中旬~下旬頃から解け始めます。7月に入れば積雪はほとんど解けてお花畑に変わりはじめます。

さて室堂平では3月と4月に雪の研究者が中心となって積雪調査が行なわれています。図1は私も参加している4月調査時の観測用の積雪断面の様子です。この積雪断面は研究者や大学の学生が協力して1日~2日かけてスコップで掘ります(調査後は元通りに埋めもどします)。図2のグラフはこの調査で観測された過去5年間の積雪の深さの推移で、最近では毎年6m前後の積雪があります。

室堂平の春先の積雪を一度に解かして水にすると、降水量に換算して3000mmほどにもなります。富山市の平野の降水量は年間で2250mm程度なので、室堂平では、平野に降る1年分以上の量の水が冬の間の雪の形で蓄えられていることになります。室堂平周辺の雪解け水は、春から夏にかけて降る雨水と一緒に常願寺川を流れ、富山平野の水田の水や水道水として利用されます。



図1 室堂平の観測用の積雪断面

水平にうすく何本も見えるしま模様は、黄砂が入った層(やや茶色)や一時的に暖かくなって雪が解けてできる氷板の層(透明感がある)などからなる。室堂平の気温は平地よりも15℃ほど低いですが、最近では真冬でも暖かい日があり、厳冬期部分の積雪にも氷板の層が入ることがある(2008年4月19日)。

(2009年5月 朴木 英治)

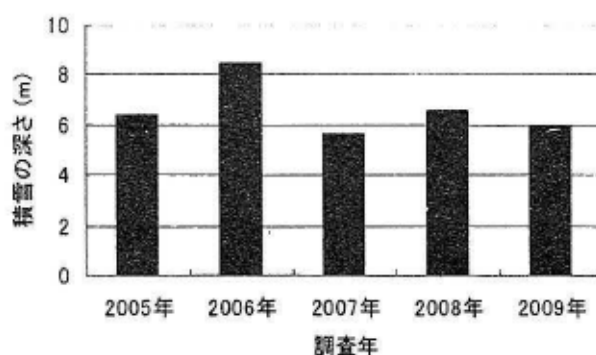


図2 室堂平の積雪の深さの推移

(調査日はいずれも4月20日前後)